

世界同時株安を受けて、米国の追加金融緩和を求める催促相場へ

2011年8月9日(火)

第一生命経済研究所 経済調査部

副主任エコノミスト 人見 小奈恵

TEL 03-5221-4523

e-mail: hitomis@dlri.dai-ichi-life.co.jp

米ソブリン格下げを機に投資家のリスク回避の動きが加速し、欧米株式市場は急落

米ソブリン格下げを受けて急落したアジア株式市場の流れを受けて、欧米株式市場も軒並み大幅安。欧州市場では、E C Bが欧州ソブリン危機の波及を阻止するため、スペインとイタリアの国債買い入れに踏み切りましたが、その後もスペインの銀行株は値下がりするなど投資家のリスク回避姿勢を和らげるには至りませんでした。ギリシャは前日比▲6.0%で11営業日続落、仏(▲4.7%)や独(▲5.0%)も大きく下げました。債券市場ではスペイン、イタリアだけでなく、アイルランドやポルトガルの国債も買い入れたと見られ、これら各国の国債価格は急伸し、C D S スプレッドは縮小しました。しかし、次に格下げ対象になりうるA A A格の国としてフランスが取りざたされ、同国の5年C D S スプレッドは145→159bpに急拡大しました。

米国株式市場もN Yダウは▲5.55%(▲634ドル)の10,809ドル。S & Pは▲6.7%、ナスダックは▲6.9%といずれも大きく下落しました。S&P500指数を構成する500銘柄全てが下落。投資家の不安心理を表すV I X指数は48.0へ急伸しました。10業種分類全ての業種が値下がりしましたが、特に金融セクターの下落率が▲10.0%と最も大きく、米国株安を主導しました。また、自動車や建機などの景気敏感株やエネルギー株の下げも目立ちました。一方、米国債券は大幅高となり、10年国債利回りは09年以来の低水準、2年国債利回りは0.26%と過去最低となりました。格下げよりも世界景気減速懸念が材料視されたようです。

為替市場では円やスイスフランが買われる一方、ユーロや豪ドル、ブラジルレアル、韓国ウォンなどが軒並み急落しました。スイスフランはドルやユーロに対

して過去最高値を更新しています。商品市場ではW T I原油が▲6.4%下げて81ドル台へ急落、銅や鉛などの非鉄金属も軒並み下げましたが、金や銀などの貴金属は買われました。金先物価格は1,700ドル台に乗せて過去最高値を更新しました。

投資家は株や商品などのリスクポジションを一斉に手仕舞い、債券や金、スイスフラン、円などに向かいました。市場では二番底懸念もささやかれており、Q E 3を期待する声は急速に高まっています。

【資料】S&P ソブリン長期発行体格付け

AAA	英国、ドイツ、 フランス 、香港、シンガポール
AA+	アメリカ
AA	スペイン
AA-	日本、台湾、中国
A+	イタリア、韓国
A	マレーシア、南アフリカ
A-	タイ
BBB+	ブラジル、ロシア
BBB-	インド
BB+	インドネシア、フィリピン
BB	ベトナム

海外市場に連れられ朝方は売り優勢も、後場は米追加金融緩和期待から下げ幅を縮める

国内株式相場は大幅続落して寄り付きしました。日経平均株価は寄り付きから9,000円を大きく割り込み、まもなくして下げ幅は▲300円を超えました。海外市場同様、全面安の展開で電機、自動車、銀行などの主力大型株主導で株価を押し下げました。7月の中国C P Iが+6.5%と前月や予想(いずれも6.4%)を上回ったことが伝わると、豪ドル安に拍車がかかり、リスク回避の動きが一段と高まりました。韓国株式市場は▲7%以上下げて、前日に引き続きサーキットブレーカーが発動。半面、金先物価格は一本調子で上昇基調をたどっており、リスク回避の流れが継続しました。しかし、市場でN Y市場の午前にバーナンキF R B議長が講演

するとの観測が広がるなど追加の量的緩和に対する期待感が一部の投資家の買戻しを誘いました。また、下落局面で買い支え役として期待される日銀の資産等買入基金によるETF買いが本日も入っているものと推測されます。日本株は下げ幅を徐々に縮小し、結局、日経平均株価は前日比▲153円安の8,944円と前引けより+250円ほど戻して引けました。東証一部売買代金は1兆9,000億円を超え、3月下旬以来の高水準でした。

株式市場は今晚のFOMCを睨んで催促相場の様相となっています。市場関係者が想定する追加の金融緩和は、①米国債の買入拡大、②預金準備率の引き下げ、③FOMC声明文の文言を変更し、時間軸の面から金融緩和期待を強化する方法の主に3つとなっています。

